

吾妻山砂防通信

第10号



荒川流路工床固工事はここまで進んでいます！

施工業者：小林土木 株式会社 TEL024-534-2335

施工場所：土湯温泉街

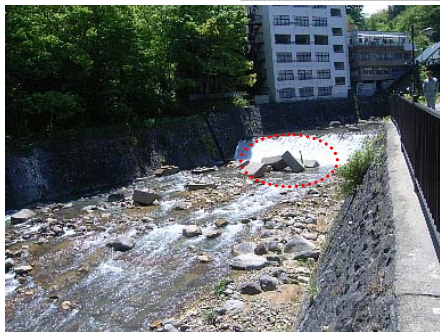
工期：平成21年3月28日～平成22年3月29日

工事概要：土湯温泉街に架かる早乙女橋下流の荒川床固の補修及び山水橋から荒川大橋までの管理用道路の工事です。



工事状況写真（2月現在）

早乙女橋下流の荒川床固の補修



施工前

根固ブロックが洗堀され危険な状態でした。



完成

落差を少なくして段構造に補修。

荒川大橋上流の管理用道路



現在施工中



お知らせ

早乙女橋下流の荒川床固は1月に完成し工事は終了しました。管理用道路は3月末まで施工を行います。地域の方々には大変ご迷惑をおかけしますがご協力をお願いいたします。

現場代理人から一言



現場代理人：安田 明

荒川床固工改築工事を担当しています安田です。昨年3月に工事を受注して約1年が経とうとしています。現場施工箇所2箇所の内1箇所は、完成し他1箇所は施工中です。3月の完成に向けて、無事故、無災害での工事の完成を目指します。地域の皆様には何かとご迷惑をおかけしますが、工事の御理解と御協力をお願い致します。



史跡探訪 米沢街道 松川町八丁目～板谷峠まで

米沢街道は天文18年（1548年）に当時福島盆地と米沢盆地を支配していた伊達氏によって米沢～大森～八丁目城を結ぶ道として開かれました。その後上杉氏の参勤交代の道路としてあるいは廻米の輸送として確保され、幕府の交通政策に照応して本格的な道路改修、宿駅の設置がはかられました。明治時代に入って、栗子峠を越える万世大路が開通し役割を終えました。

街道の周辺に残る遺跡や道標等は先人が残した生活の跡を感じることができますが、今回は松川町八丁目～板谷峠までの街道沿いの史跡等を紹介します。



① 松川めがね橋
明治18年に完成。
「ふくしま市景観100選」にも選ばれた。



② 八丁目城址
八丁目城は戦国時代の16世紀伊達種宗の支城として築かれた。



③ 稲荷塚古墳
5世紀後半に造られた古墳で、古墳の周辺から弥生時代の土器や須恵器「はそう」という器が出土している。



④ 鳥渡観音堂
観音堂境内には芭蕉の句碑や多くの古碑・石仏が郡立している。観音堂南側に明治初年建築の商人宿があったが、民家園に移築された。



⑤ 下村宿付近
宿の西側には文明7年（1787）～文政6年（1823）まで37年間続いた下村藩田村氏の陣屋があった。



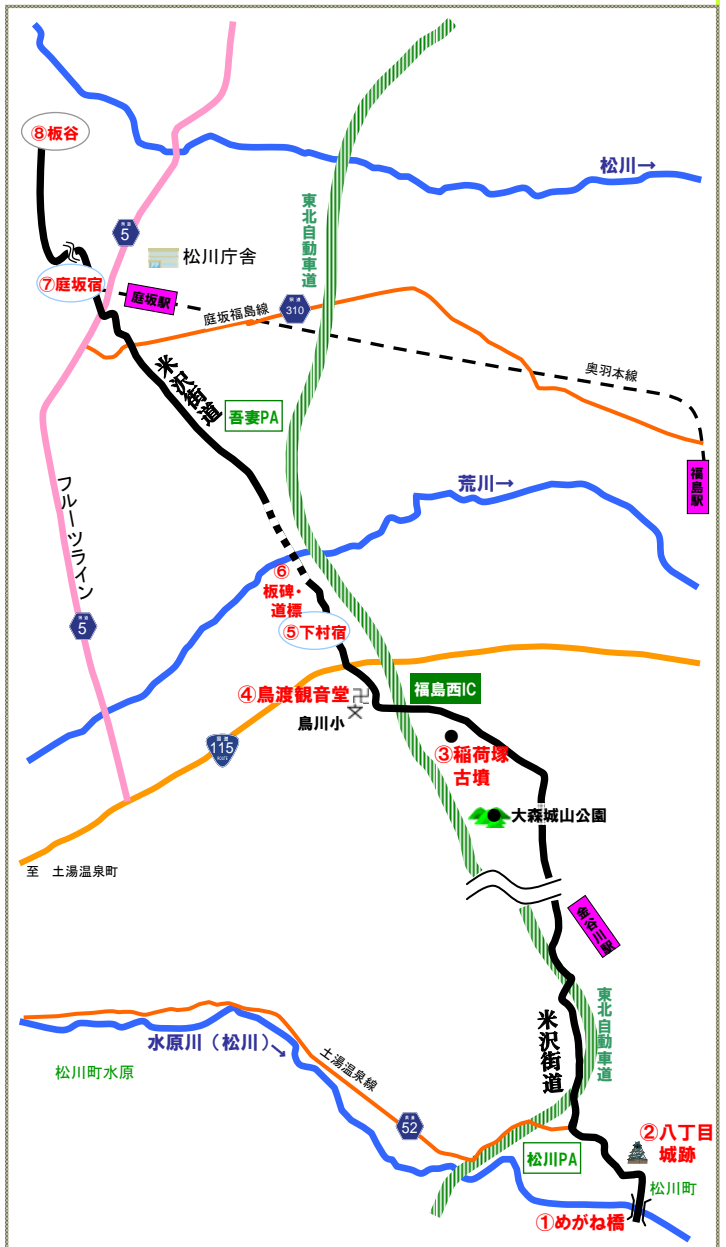
⑥ 米沢街道沿いの板碑・道標
右端が道標。左の板碑は馬頭尊など。街道沿いには他にも多くの板碑が見られる。



⑦ 庭坂宿（本陣・問屋・庭坂村旧役場跡）
上杉領時は庭坂は米沢～大森、あるいは米沢～福島間の要所として発展した。



⑧ 米沢街道（板谷街道）の石畳
最も栄えた江戸時代には伊勢参りの人や商人など、1日に50人程の通行があったといわれている。近くに米沢街道石畳の標柱が建てられている。



一口メモ

米沢街道と松川

米沢街道には三つの『松川』が流れています。
一つは米沢市内を流れる最上川（松川）、二つ目は米沢市から福島市に流れる松川、三つ目は福島市松川町を流れる水原川（松川）です。同じ上杉領だったので何か関連があるのかもしれませんが。
最上川：米沢を流れる最上川の上流部は松川と呼ばれていました。直江兼続は松川の治水・利水事業を行いました。その施設群は現在も利用されています。（2008年に土木学会「選奨土木遺産」となりました。）
松川：姥湯～板谷～信夫山北側を流れています。（板谷：街道中間点）
水原川：松川町八丁目を流れる川は昔は松川と呼ばれていました。

お問い合わせはこちら （ご意見・ご感想・砂防に関すること）

国土交通省 福島河川国道事務所
吾妻山山系砂防出張所（本庁舎）
〒960-2156
福島県福島市荒井字地藏原甲2-14
TEL 024-593-0831
吾妻山山系砂防出張所（松川庁舎）
〒960-2261
福島県福島市町庭坂字遠原三3-4
TEL 024-591-1207
HP <http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/>

